

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

寒川町立旭が丘中学校

研究テーマ：効果的な指導法の工夫 ～生徒のよりよい育成を目指して～

1 実践の目的

令和4年度に、「深い学びが展開される授業づくり ～生徒の見方・考え方を深める問い」という研究テーマを掲げ、4年間の研究の集大成として寒川町研究発表大会を開催した。本研究を振り返る中で拵がった課題点や教員側の悩みを、「主体的に学習に取り組む態度の育成と評価について」、「深い学びにつながる ICT 機器の活用」、そして「生徒の自己肯定感を高める工夫」、の3つの項目に整理することができた。これからの旭が丘中学校としての新たな研究の方向性を探るべく、①主体的に学習に取り組む態度の育成と評価について、②深い学びにつながる ICT 機器の活用、③自己肯定感を高める支援の在り方（授業での工夫）、という3つのグループを構成し、生徒のよりよい育成を目指した効果的な指導法の工夫について、研究を進めることとした。

2 実践の内容

(1) 研究の概要

本年度は、教科・学年関係なく、A～Cのグループを作成し、それぞれの研究テーマに沿って研究実践を行った。Aグループは、主体的に学習に取り組む態度の育成と評価について、Bグループは、深い学びにつながる ICT 機器の活用、Cグループは、自己肯定感を高める支援の在り方（授業での工夫）というテーマで研究を行った。

・Aグループの研究内容

評価するにあたって、学びの過程を大事にする必要がある。何を評価項目にし、どの

ような評価をするかについて研究を行った。振り返りなどのワークシートからの記述だけでなく、授業の中でどのように見取るのかを中心に研究を進めた。

・Bグループの研究内容

ICT機器の有効性・有用性について、教員間で共通認識を図り、どのように活用することによって、「見方・考え方」を働かせることができるのか研究を進めた。ICTのメリットを活かし、「根拠のある説明をする力、自分自身のことや考えを表現する力」の育成を目指した授業実践を行った。

・Cグループの研究内容

授業の中で自己肯定感を高めるために、「UD」の視点を意識した授業実践を行った。授業のUDの視点（共有化）・身体性の活用・視覚化・スモールステップ化・焦点化&展開の構造化を大切にすることで、生徒に「わかった!」「できた!」を実感させ、自己肯定感を向上させる授業実践を行った。

(2) 校内研究会・講演会の充実

・校内研究会 (5/11)

3つのグループに分かれ、研究推進部のメンバーをチーフに研究の方向性の確認、共通認識を行った。各教員がそれぞれのグループに分かれ、自身の研究内容の確認とこれまでの実践を振り返ることで、意見交換を実施した。

・ICT研修会 (8/1)

株式会社 Loilo の守谷氏による深い学びにつながる ICT 機器 (ロイロノート) の活

用法について、オンライン上でご教授いただいた。シンキングツールや共有ノートを書いて学ぶだけでなく、全教員で実際に活用しながら基本的な使い方や活用法を習得した。教科ごとにグループ分けをし、各教科で深い学びにつながる授業案の作成を行った。

- 校内研究会、講演会（11/6）

1 学年英語科の中島総括教諭による研究授業を行った。教科書 Here We Go!①Unit4 GOAL「誰のことかを当てよう」の単元を用いて、授業内で自己肯定感を高める支援の在り方についての研究授業を行った。その後研究協議を行い、星槎大学大学院阿部先生を招聘し、「教育のユニバーサルデザイン ～児童・生徒が安心して学ぶ場づくり～」というテーマでご講演をいただいた。授業での UD の視点についての話から、他の中学校で実践されている具体的な授業のユニバーサルデザイン・スタンダードの項目について共有した。

- 校内講演会（1/22）

横浜国立大学大学院教育学研究科渡部匡隆教授を招聘し、「教育的ニーズのある生徒の理解と指導・支援の一助として」というテーマでご講演をいただいた。応用行動分析（Applied Behavior Analysis：ABA）を活用して、生徒理解を深め、よりよい指導・支援法について考えを深めた。



校内研究会(5/11)



ICT 研修会(8/1)



校内研究会、講演会(11/6)



校内講演会(1/22)

3 実践の成果

本年度の研究に関するアンケートから、本校の8割以上の教員から、本年度の研究がためになったという回答を得た。A, B, Cという3つのグループに分かれたことで、小グループでの意見交換が活発にできたことや、他グループの研究について知ること、幅広い知見を得ることができ、新たな気づきや学びを得ることができたからであった。また、具体的な先生方の授業実践を知ることができ、若手からベテランの教員まで良い学びの機会になった。

今年度は3名の方を講師として招聘し、ご講演や研究会を行った。それぞれのテーマについて具体的な実践や理論についてなど、教員自身が学びを深める機会を設けたことは、有意義な時間であった。

4 今後の展開

本年度の課題として、各グループで研究は進めたものの、各先生方の実践研究を共有する時間が十分ではなかった。先生方からは、「他のグループの研究について知る機会がもっとほしかった。」という声が挙がった。研究推進部として、各先生方の実践をよりアウトプットする機会を作ることで、学びや研究の質を高められたのではないかと考える。

今後の展開として、今年行った研究から旭が丘中学校の生徒の様子や教員の意識をもとに、来年度どのテーマで研究を進めていくのか、吟味していく必要がある。3つの研究テーマについて広く研究を行ったことで、これからも教員間のつながりやネットワークを使って、情報共有を活発にしていき、よりよい生徒の育成を目指した教育実践をこれからも行っていきたい。